

原著論文

小学校教師が指導に困っている学用品の種類と作業療法へのニーズ

赤塚花実¹⁾ 笹田哲²⁾

要旨:教師は教科指導の際に,どのような学用品に困っているのか,そしてどのような指導を行ってきたのかを明らかにすること,これらの学用品に関する相談に対応するために,OTの関わり方について検討する目的で,通常学級の教師を対象にアンケートを実施した.その結果,通常学級教師97名から回答を得た.「整理整頓が出来ない」が最も多く92.8%であった.次いで「コンパスのひねり操作」81.4%,「定規の操作」79.4%,「はさみの操作」「リコーダの操作」75.3%であった.また学校に作業療法士が関わることを良いとする回答は89%を占めた.今後作業療法について知りたいと回答した教師は93%であり,具体的な手段としては,OTによる講義,パンフレットの配布であった.

キーワード:特別支援教育,通常学級,作業療法

はじめに

2001年から徐々に始まった特殊教育(special education)から特別支援教育(special needs education)への転換は,制度改正による2007年4月からの本格実施を経て,現在は特別支援教育の充実期に入っている¹⁾.特別支援教育は「今後の特別支援教育の在り方について(最終報告)」²⁾で,従来の特殊教育の対象の障害だけでなく学習障害,注意欠陥多動性障害,高機能自閉症を含め,障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて一人一人の教育的ニーズに応じて特別の教育的支援を行うという視点に立ち,教育的対応を考えることが必

要である.生活や学習上の困難を改善または克服するために,適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うこととされている.通常学級には,学習面や行動面で著しい困難をきたし,特別な支援が必要な児童が約6.5%在籍しているとの調査結果がある³⁾.これは40人学級では2から3人,30人学級では約1から2人に相当し,どの学級にも在籍していることを示している.

特別支援教育制度に伴って,文部科学省も理学療法士,作業療法士(以下OT),言語聴覚士の外部専門家を学校現場で活用する取り組みを推進している³⁾.日本作業療法士協会においても特別支援教育への参画を推進⁴⁾しており,各地で特別支援教育に関する活動が行われ,作業療法学会での特別支援教育関連の演題もここ数年で増えてきている.地域によっては専門職としてOTという枠で学校

1) 新横浜リハビリテーション病院

2) 神奈川県立保健福祉大学

に訪問するケースも出てきている。また、京都、大阪府内で特別支援教育に関わるチームを編成し、学校を巡回する実践⁵⁻¹¹⁾も行われている。このように小学校でのOTの取り組みが行われ、筆者らもOTとして小学校に訪問し児童生徒の学習への支援を実践してきたが、通常学級に訪問すると教師から消しゴムやはさみのなどの学用品の操作が上手にできないとの相談をうけることが多い。小学校の授業では、学年ごとに様々な学用品を使用する。このように、学用品は学習には切り離せない必要不可欠な物品であると同時に、学用品の使用を通して学習の達成に直接影響を与えるものであり、その操作が困難な児童では学習へ参加が妨げられる可能性がある。我々の経験では、はさみ、消しゴムなどの操作に困難さを示す児童が多いと感じているが、教師は学用品の操作に指導の必要性を感じているのか、もし感じているのであればどの学用品なのか、その現状は把握されていない。以上のことから本研究の目的は、教師は教科指導の際に、どのような学用品に困っているのか、そしてどのような指導を行ってきたのかを明らかにするとともに、これらの学用品に関する相談に対応するために、OTの関わり方について検討するための基礎的な情報を得ることである。

方法

アンケート質問紙を作成し、選択式及び自由記述により回答を求め、学校長宛に郵送にて実施した。調査期間は、2012年9月から10月であった。調査の内容は3つに分け、1. 教師のプロフィール、2. 指導で困っている学用品、3. OTとの連携について回答を求めた。学用品は学習指導要領¹²⁾を参考に該当するものを選択した(複数回答)。OTについては、OTが学校訪問すること、OTを必要としない理由、OTについて知りたいと思うかなどについて質問した。集計方法については、各項目の回答人数を集計した。

結果

1. 教師のプロフィール

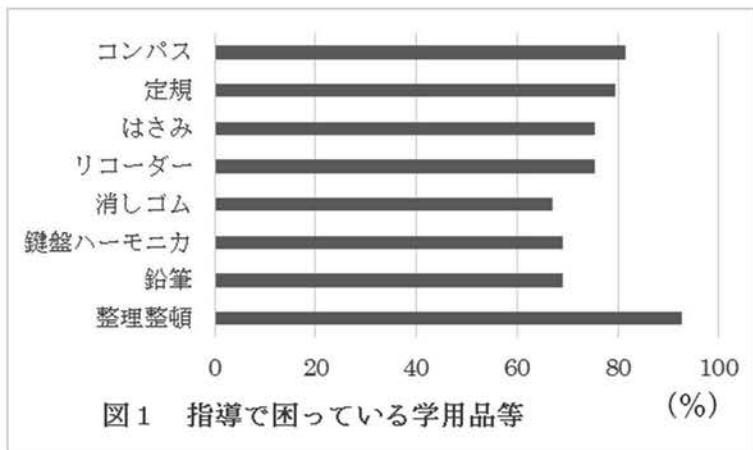
アンケートは小学校教師を対象として神奈川県、東京都の小学校10校計268通を郵送し、同意が得られた109名の教師から回答を得た。回収率は40.6%であった。そのうち、特別支援学級担任と通級担当教師は対象から除外し通常学級教師の97名を集計の対象とした。

性別は女性が69.1%(67名)、男性が30.9%(30名)で女性が多かった。年齢は50代が35%(34名)と最も多く、次いで20代25%(24名)、30代21%(20名)、40代16%(16名)、60代以上3%(3名)であった。経験年数は21年目以上のベテランが43%(41名)と最も多く、2~4年目17%(16名)、5~7年目16%(15名)、11~15年目9%(9名)、8~10年目7%(7名)、1年以内と16~20年目4%(各4名)であった。学年別では、2年生と6年生15%(各14名)、3年生12%(12名)、1年生11%(11名)、5年生10%(10名)、4年生9%(9名)で、全学年を網羅していた。

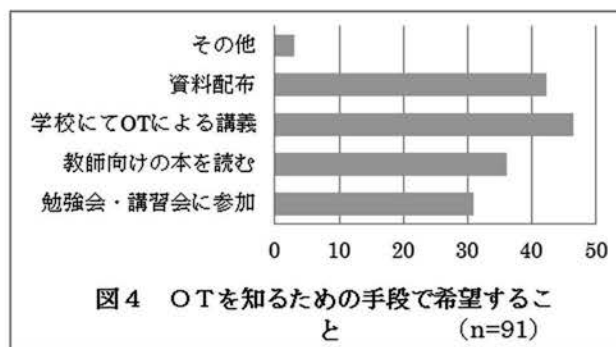
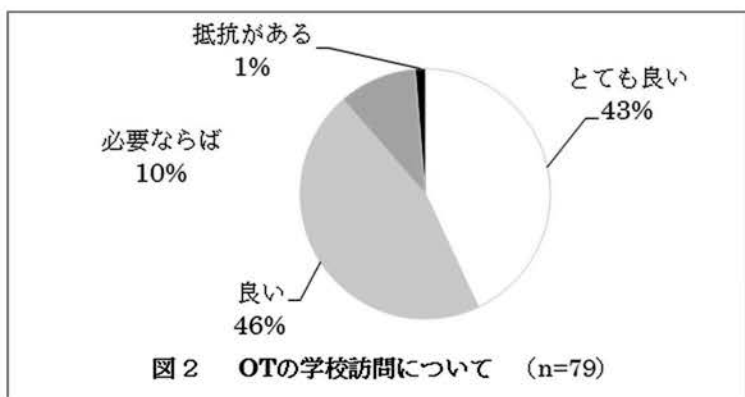
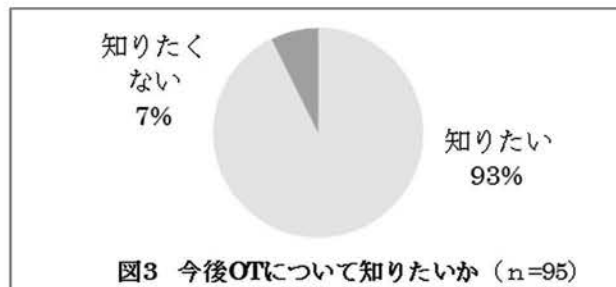
2. 学用品の種類と指導方法

「整理整頓が出来ない」が最も多く92.8%(90名)であった。次いで「コンパスのひねり操作が上手に出来ない」81.4%(79名)、「定規の操作が上手に出来ない」79.4%(77名)、「はさみで線に沿って切るのが上手に出来ない」「リコーダの指の操作が上手に出来ない」75.3%(73名)となった(図1)。

これらに対して具体的にどのような指導を行ったか尋ねたところ(記述)、「ひたすら練習した」「個別対応をした」「出来たら褒めた」「声を掛けた」「手添えで一緒に取り組んだ」というものが挙げられていた。



の作業療法の本があれば読みたい」が36.1% (35名), 「勉強会・講習会があれば参加したい」が30.9% (30名)であった。「その他」では、「ビデオ等を用いて事例検討が出来たら良い」「講義だけでなく実技も希望する」との意見があった(図4)。



3. OT との連携について

1) OT が学校に訪問することについて

「OT が学校に訪問することについてどう感じるか」を尋ねた。「とても良い」「良い」が全体の89% (70名)を占めた(図2)。

2) OT を必要としない理由

「OT のアドバイスを必要としない理由は何か」を尋ねたところ(複数回答)。「何をやる職種か分からない」が33% (6名)であり、「必要性を感じない」が28% (5名), 「その他」が22% (4名)であった。

3) 今後 OT について知りたいと思うか

「はい」が93% (88名), 「いいえ」が7% (7名)であった(図3)。

4) どのような手段を希望するか

OTを知るための手段として希望するものを選択してもらった(複数回答)。「学校で小学校教諭向けのOTによる講義をして欲しい」が46.4% (45名), 「資料を配布して欲しい」が42.3% (41名)と約半数近い回答を得た。次いで「小学校教諭向け

考察

小学校の通常学級教師を対象に、指導に困っている学用品を調べたところ、上位を占めたのは、コンパス(81.4%), 定規(79.4%), 続いて、はさみとリコーダ(75.3%)であった。定規は算数の筆算の時によく用いられ、また図工の図面の線引き等でも使用される。はさみは図工、算数、理科と複数の教科で使用される機会が多い。これに対して、コンパスとリコーダは中学年から算数、音楽の特定の科目のみで、それほど頻回に使用するものではないが、コンパスは、円をきれいに描くためには、コンパスの軸心がずれないように力を加減しながら、しっかりひねらなければならない。リコーダは、穴を指腹でしっかりふさがないと音程があわず合奏が進まないことが予測される。コンパスとリコーダの操作が良好でないと、学習が円滑に展開できず成果に直に影響を及ぼす特徴が見られる。以上のように、これらの学用品が上位を占めたのは、上

記の要因が反映されたのではないかと考えられる。次にこのような学用品の操作が困難な児童に対して教師は、できない場合の対応についての回答をみると、声掛けして反復練習を行う、できたら褒めるといった繰り返しの指導が中心であった。学用品の特長に合わせて、具体的に工夫された指導方法は、今回の調査からは明らかにされなかった。

また「整理整頓」と回答した教師が9割と非常に高かったが、理由として整理整頓は、学用品を介して多くの運動技能と処理技能を必要とし、継続的に遂行されなければならない。整理整頓は一教科の授業の中で行われるが、さらに授業と授業の休み時間にも頻繁に行われるものである。従って整理整頓がスムーズに遂行できないと学習の遅れにつながりやすいと推察される。しかし、本調査からは整理整頓ができない具体的な学習場面までは把握できなかった。今後の課題としては、より具体的場面を通して、整理整頓ができない要因を分析する必要があると考えられる。

アンケート結果より整理整頓やコンパス、定規などの学用品の操作の指導に悩んでいる通常学級教師が見られたことと、教師からOTによる講義、実技指導の要望があったことを勘案すれば、学用品の操作の問題により、様々な学習活動に困難を来している児童に対して、作業療法の観点から評価を行い、できるまで反復の指導ではなく、児童に合った指導方法を提案できるように、事例の検討やノウハウの蓄積等を行い、OTの技能向上を図っていくことが必要なのではないかと考えられる。学校と作業療法の連携において、日本作業療法士協会による特別支援教育における作業療法のパンフレットを作成している¹³⁾。今回の調査で、作業療法に関する資料の配布を望む意見も寄せられていたが、通常学級担任教師に向けたパンフレット類は少ないため、整理整頓や学用品操作のサポート法について言及したコンテンツについて検討してみることも有益ではないかと考えられる。

引用文献

- 1) 柘植雅義：特別支援教育の推進と教師・専門職の連携. OT ジャーナル 43 (11) : 1184-1188, 2009
- 2) 文部科学省：今後の特別支援教育の在り方について (最終報告), 2003
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/018/toushin/030301.htm)
- 3) 文部科学省：特別支援教育
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/004.htm)
- 4) 作業療法士協会：特別支援教育における作業療法 (OT) (
<http://www.jaot.or.jp/kankobutsu/pamphlet/>)
- 5) 加藤寿宏：軽度発達障害児は教育と作業療法の連携で支援するー学校教育現場と作業療法が連携するには. 地域リハビリテーション 2 : 584-587, 2007.
- 6) 辻薫：都道府県作業療法士会活動から学校、地域への道を拓くー学校支援と地域支援の取り組み. 作業療法ジャーナル 43 : 1212-1217, 2009.
- 7) 西口あずさ：寝屋川市の「学校」におけるOTの活動報告. 作業療法ジャーナル 46 (8) : 1042-1047, 2012.
- 8) 山西葉子：特別支援学校における作業療法士の役割について 神奈川県での取り組み. 日本作業療法学会抄録集 2009.
- 9) 長谷龍太郎, 吉川雅子, 砂川紀子：これからの発達障害の作業療法に期待することー特別支援教育における作業療法の現状と今後の展望ー. 神奈川作業療法研究 1 (1) : 1-4, 2011.
- 10) 吉川雅子, 笹田哲：学校で働くOTとして考える視点・役割. 作業療法ジャーナル 46 (8) : 1034-1036, 2012.
- 11) 三澤一登 他：特別支援教育と作業療法士の関わりについての現状報告. 作業療法 26 :

612-620. 2007

12) 文部科学省:小学校学習指導要領 第4版, 東京書籍, 2009.

13) 作業療法士協会:特別支援教育における作業

療法 (OT)

(<http://www.jaot.or.jp/kankobutsu/pamphlet/>)

The kind of school supplies in which the elementary schoolteacher is troubled by instruction and needs for the occupational therapy from a teacher

By

Hanami Akatuka¹⁾ Satoshi Sasada²⁾

From

1) Shinyokohama Rehabilitation Hospital

2) Kanagawa University of Human Services

Abstract : The purpose of study is to show clearly being troubled by what kind of school supplies, what kind of instruction the teacher did, and for the occupational therapist to examine the method concerned with a teacher. As a result of carrying out a questionnaire to class teachers, the reply of the questionnaire was usually obtained from 97teachers. The reply from teachers is shown below, housekeeping of school supplies is not made was 92.8%. The replies of school supplies were compass (81.4%), ruler (81.4%), and scissors/recorder (81.4%). The reply that it is good for the occupational therapist to visit to school was 89%. The teachers who answered that they would like to know about occupational therapy from now on was 93%. As a good means, they were a lecture by the occupational therapist, and distribution of a pamphlet.